2020　年度　　授業概要

科目名		摂食・嚥下障害Ⅱ			授業の種類	講義	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間　（1単位）	配当学年・時期	言語聴覚士科3年		前期	必修・選択	必修

〔授業の目的・ねらい〕

多様な原因で発症する摂食嚥下障害の診断、評価、訓練法を取得する

〔授業全体の内容の概要〕

1.摂食嚥下障害の原因について概説する
2.摂食嚥下障害の臨床像について概説する
3.摂食嚥下障害の評価法について概説する
4.摂食嚥下障害の治療・訓練法について概説する

〔講師の実務経験〕

石橋内科広畑センチュリー病院、神戸掖済会病院、ツカザキ病院にて言語聴覚士として１６年間勤務

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

1.対象者の病態・様態に関わらず摂食嚥下障害を評価できる
2.摂食嚥下障害に対する治療法・リハビリテーションに習熟する
3.関連する他職種との連携ができる

回数	講義内容
1	摂食嚥下に関する解剖、神経、機能、発達
2	摂食嚥下障害の病態（成人：脳血管疾患）
3	摂食嚥下障害の病態（成人：神経筋疾患）
4	摂食嚥下障害の病態（成人：その他の疾患、高齢者）
5	摂食嚥下障害の病態（小児）、外科的治療
6	摂食嚥下障害に対する評価（口腔器官評価、反復唾液嚥下テスト、改訂水飲み検査）
7	摂食嚥下障害に対する評価（口腔器官評価、反復唾液嚥下テスト、改訂水飲み検査等の演習を中心に）　準備物：コップ、水、スプーン
8	摂食嚥下障害に対する評価（嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査等）
9	摂食嚥下障害に対する間接訓練
10	摂食嚥下障害に対する直接訓練とリスク管理（カニューレへの対応を含む）
11	摂食嚥下障害に対する食事介助と栄養管理（患者、患者家族、関連職種への指導を中心に）　準備物：コップ、水、とろみ剤
12	摂食嚥下障害に関連する他職種との連携
13	摂食嚥下障害の外科的治療
14	摂食嚥下障害に対する事例検討（臨床像をまとめる演習を中心に）
15	摂食嚥下障害に対する事例検討（患者、患者家族、関連職種連携の演習を中心に）

【　準備学習・時間外学習　】

事前に摂食・嚥下障害Ⅰの復習

【　使用テキスト　】

書籍名	著者名	出版社

【　単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）　】

筆記試験にて評価する。